

令和8年度

研究デザイン

亀山市立亀山中学校

1. 「亀山市教育大綱 基本方針-1」及び「亀山市教育関係職員の研修方針」

教育大綱 基本方針-1

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生きながら

なかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。
- (5) 研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励を取り入れ、効果的かつ主体的に資質向上を進める。

2. 学校教育目標

「豊かな人間性とたくましい行動力を持った生徒の育成」

～人とかかわる喜びを持ち、きずなをつくる生徒へ～

3. 研究主題

亀山中学校研修主題

主体的・協働的な生徒の育成

～ 話し合いを通して学びを深める授業づくり ～

4. 研究主題設定の理由

①生徒の実態

素直で明るく、落ち着いた学校生活を送り、体育祭・文化祭といった行事では、集団としてのまとまりや団結により多くの成果を生み出すとともに、他を認め合い仲間の大切さやつながることの大切さを感じることができている。学習面では、授業に真面目に取り組む、基礎的な学力については概ね定着しているといえる。一方で、自分のことで精いっぱいになってしまい周りに関われない生徒や、失敗を恐れて自分の考えを出せない生徒、意見の交流に苦手意識を持っている生徒もいる。

②これまでの取組、これまでの成果・課題

本校では、「主体的・協働的に学ぶ生徒の育成」という研究主題のもと、研修を続けてきている。令和 7 年度は、道徳の授業研究を通して、主体的・協働的に学ぶ生徒を育成するために、「話し合い」の場면을意図的に設定することで教育活動を充実させ、これまでの成果をさらに積み上げ、研究を深めていくこととした。道徳の授業に焦点を当て、話し合いで大切にしたいことを考えたり、話し合いの手立てとして、自分の意見と仲間の意見を比べ、整理したり分類したりする方法を学んだりすることができた。授業研究を通して、教材への理解が深まり、道徳の授業にどのように「話し合い」を取り入れると効果的かを考え、共有することができた。

その結果、生徒アンケートで「授業の中で自分の考えを持つことができた」と回答した生徒が 72%、「友達の考えを一生懸命に聞くことができた」と回答した生徒が 79%という結果が得られた。一方で、「自分の考えを発表したり進んで友達と考えを交流したりできた」と回答する生徒は 51%にとどまっている。「話し合い」の場면을意図的に設定することで、自分の考えを持ち、仲間の考えを聞くことができる生徒は増加したものの、「話し合い」を通して、考えが深まったり、仲間同士が繋がったりすることが少ないという課題が残った。

そこで、今年度も研究主題は継承し、「話し合いを通して学びを深める授業づくり」をサブテーマとして設定した。主体的・協働的に学ぶ生徒を育成するために、今年度も「話し合い」の場면을意図的に設定したい。道徳の研究で得たことをもとに、全教科で「話し合い」活動をより一層充実させたい。教職員が、様々な話し合いの形を学び実践したり、話し合いが深まる発問について考えたり、話し合いを取り入れた授業デザインを研究したりすることで、授業改善に取り組み、授業力向上を図りたい。自分の意見を出し、仲間と意見を交流し、最後に自分と再びつなげることによって、物事をより自分ごとにでき、行動できる生徒が育つと考える。また、クラスの仲間と考えを深めるために話し、表現するなかで、居心地のよい学級ができ、安心して学ぶことができると考える。そのためには、全教職員が主体的・協働的に研修を深め、話し合いを通し、学びを深めることができるように研修を進めていく。

研修期間	研修主題	副主題
2018 年	だれもが“わかる”“できる”を 実感できる授業づくり	ユニバーサルデザインを取り入れた授業を目指して
2019 年		主体的・対話的で深い学びの実現
2020 年		授業での絆づくり・学びあいの実現
2021 年		授業での絆づくり・学びあいを通して確かな学力の育成
2022 年	主体的・協働的に学ぶ生徒の育成	意欲の高まる指導方法の工夫を通して
2023 年		思考ツールを活用した授業づくりを通して
2024 年		学び合いを通して考えを広げ深める授業づくり
2025 年		話し合いによる道徳の授業研究を通して

図 1. 亀山中学校における過去8年間の研修主題の変遷

5. 研究主題について

本年度は上述したように、主体的・協動的に学ぶ生徒を育成するために「話し合いを通して学びを深める授業づくり」を進める。そこで、以下のように定義することとした。

① 主体的に学ぶ生徒とは

学習を自分事として捉え、自らの意思で粘り強く学習を進めたり、自分の学習を振り返ったりしながら一生懸命に学習をする生徒。

② 協動的に学ぶ生徒とは

仲間の個性を尊重しあえる関係のもと、授業において仲間と自分の考えを確認したり、比較したりしながら課題解決のために仲間と助け合いながら学習する生徒。

③ 話し合うとは

「考える」「聞く」「話す」「表現する」ことを通して、他者と関わる中で自らの考えを持ち、他者の考えを受け止め、新たな視点に気づくことができる生徒。

6. 研究領域 全教科

7. 具体的な取組

(1) 話し合いを意識した授業づくりについて

①教職員が話し合いを効果的に活用できるよう外部講師を招聘し、自身の授業づくりに反映させる。

②相互授業参観の実施

- ・年間を通したグループを設定。(異年齢による教科横断的交流を実現)
- ・研究テーマに関わる授業を全員が実施。(全員が実施することで、より研究への意識が高まる)
- ・参加者はその授業から自身の授業に取り入れられる点や新たな気づきを抽出。
- ・1、2学期に各2週間、相互授業参観ウィークを設定し、グループ内で相互授業参観を必ず行う。
- ・年間を通してグループで、どのような授業を実践したかをまとめ、全体交流。(随時作成していく)

③授業研究会の実施

代表者が、話し合いを意識した授業を実施し、全教職員で参観し、事後検討を実施する。

④年間を通して、生徒用質問紙調査を実施することで生徒の変容を視覚化する。質問紙調査結果をもとに随時、研修指導部主催の取組や主体的に取組む手立ての見直し改善を図る。

(2) 生徒理解に向けた取組について

多文化共生、不登校・別室登校生徒への学習支援、生徒指導、人権教育に関する研修会の場を持ち、生徒理解を深める。視点生徒を中心とした学級づくりを継続する。

(3) 教職員集団の高まりについて

学校の事情や教育課題に応じて、その都度、OJT(On the Job Training)による研修の場を実施し、豊富な経験のある先生方から援助や助言を頂き、同僚同士で高め合うことによって、若手教員の育成にも繋げる。また、互いに相談しやすい雰囲気を作る。

8.研究構造図

《学校教育目標》

「豊かな人間性とたくましい行動力を持った生徒の育成」

～ 人とかかわる喜びを持ち、きずなをつくる生徒へ ～

めざす学校像

- 生徒のきずなと居場所のある学校
- 保護者、地域に信頼され、協働できる学校
- 生徒の声が大切にされる学校
- 教職員が生きがいを持って働ける学校



目指す生徒像

- 自ら挨拶・掃除・学習をする生徒
- 自己調整する力を持ち、自らの生活、学びを高める生徒
- 「人」「物」「命」を大切にする生徒
- 主体的・協働的な活動を通してきずなを作る生徒

めざす教師像

- 「授業」と「仲間づくり」を大切にする教師
- 生徒が安心して過ごせる居場所をつくる教師
- 保護者や地域との連携を進める教師
- 同僚性の構築と健康の保持増進に努める教師

【研究主題】

主体的・協働的に学ぶ生徒の育成
～話し合いを通して学びを深める授業づくり～

基礎学力の定着

- 家庭学習の定着
- 「めあて」「まとめ」「ふりかえり」の定着
- 話し合いを中心としたスタイルの確立
- 「亀中タイム」などを利用した補充学習の充実
- ICTの活用による個別最適な学び

主体的な学び

- ICTやタブレットの効果的な活用
- 思考の可視化
(思考ツールの活用)
- 協働的で深い学びの実現
- 話し合う力の向上
- 教師の授業力向上
- 発問・課題の工夫

確かな学力の向上

生活規律・学習規律の確立

人権教育を根底にした学校・学級づくり
(いのちの日の取組・多文化共生・居場所づくり・絆づくり)